

平成 26（2014）年さけます来遊状況（第 7 報：1/31 現在）

3 サケ年齢組成と体サイズ：今年度の最終報

独立行政法人水産総合研究センター
北海道区水産研究所 さけます資源部

- 北海道では、1994 年以降で 4 年魚は最も少なく、5 年魚は平年*¹ よりやや少なめだが前年並み、3 年魚は前年および平年を大きく上回る
- 本州太平洋では、1994 年以降で 4 年魚が最も少ないが、5～6 年魚は平年並み～上回る状況であり、震災の影響による 4 年魚の来遊減を高年齢魚が補うような状況
- 本州日本海では、主群の 4 年魚および 3 年魚がともに前年および平年を上回り、とくに 3 年魚は平年の 2 倍以上の来遊数を記録
- サケの平均重量は北海道で 3.49 kg、本州で 3.24 kg であり、北海道の主要河川に回帰した 4 年魚の尾叉長は前年よりも大きく、近年では 2010 年に近い水準

*¹：平年とは、1994（平成 6）～2013（平成 25）年の平均値

・サケの年齢組成 （全国）

全国の主要な河川に回帰したサケの年齢査定の途中経過をもとに、1 月末時点における年齢別来遊数を推定したところ、4 年魚（2010 年級）は前年同期 65%、平年同期 50%であり、4 年魚の来遊数としては 1994 年以降で最も少なくなっています（図 1）。5 年魚（2009 年級）は前年同期 103%、平年同期 94%と前年及び平年並みの水準です。3 年魚（2011 年級）は前年同期 251%、平年同期 103%と、前年を大きく上回り平年並みとなっています。

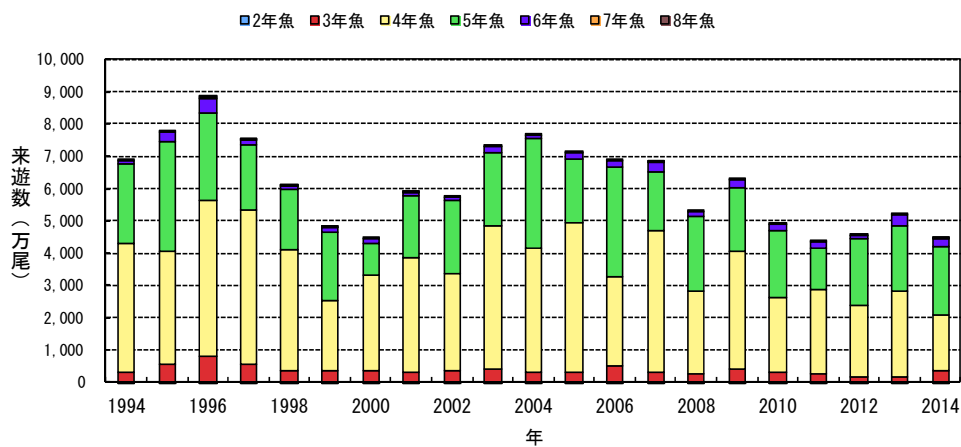


図 1. 1 月末時点のサケ年齢別来遊数（全国）.

(北海道)

4年魚(2010年級)の来遊数は、前年同期67%、平年同期54%であり、4年魚としては1994年以降で最も少なくなっています(図2)。5年魚(2009年級)の来遊数は、前年同期95%、平年同期91%と平年よりはやや少ないですが、前年並みの状況です。その結果、12月末時点の年齢組成は、5年魚が46%と最も多く、4年魚が41%でそれに続きます。昨年にひき続き、6年魚(2008年級)も平年同期129%と多くなっていますが、前年同期との比較では65%であり、前年よりは少ない状況です。一方、3年魚(2011年級)は前年同期242%、平年同期122%と前年ならびに平年を大きく上回る状況です。

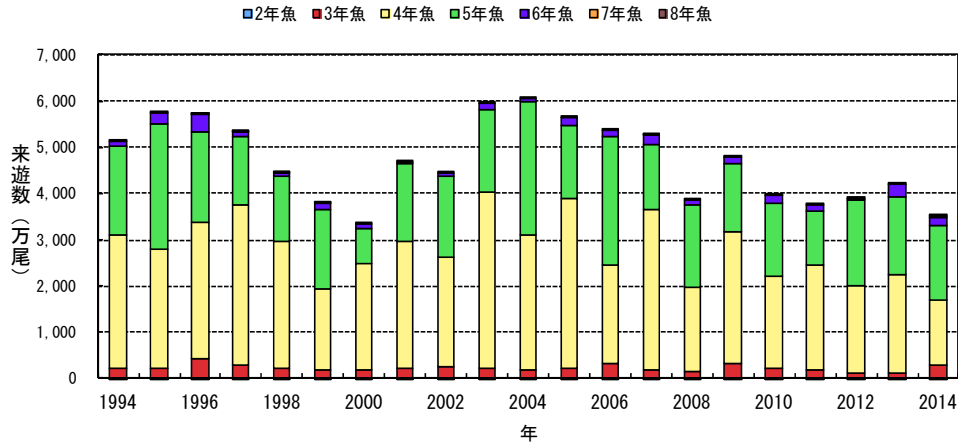


図2. 1月末時点のサケ年齢別来遊数(北海道).

年級群(生まれ年)ごとの来遊数をみると、今年度の4年魚である2010年級は、4年魚までの来遊数(2~4年魚の来遊数)で比べた場合、1992年級以降では最も少なくなっています(図3)。また5年魚である2009年級は、直近の2008年級と同水準です。今年度来遊の多い3年魚(2011年級)は、1992年級以降の平均の122%あまりとなっています。

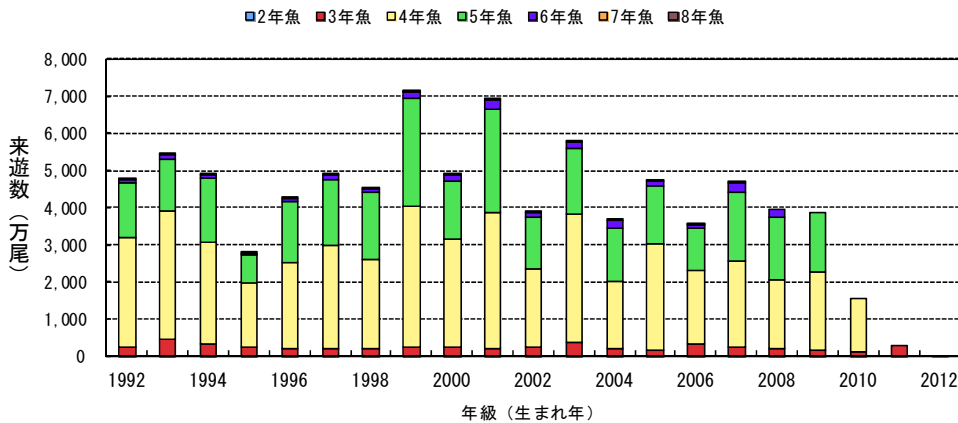


図3. 1月末時点のサケ年級群(生まれ年)別来遊数(北海道).

地域別にみると、太平洋側（根室～えりも以西海区）では、4年魚が前年同期 73%、平年同期 45%と少なく、1994 年以降では最も少ない状況ですが、5年魚は前年同期 116%、平年同期 83%と前年よりも多くなっています（図 4）。日本海側（オホーツク海区及び日本海区）の 4年魚は前年同期 63%、平年同期 65%と少なく、1994 年以降では 2 番目の少なさです（図 5）。日本海側の 5年魚は前年同期 81%と前年よりは少ないですが、平年同期 101%と平年並みです。また、今年度は両地域で 3年魚（2011 年級）が前年同期よりも多く（230～255%）、平年同期と比べても 111～135%あまりになっています。

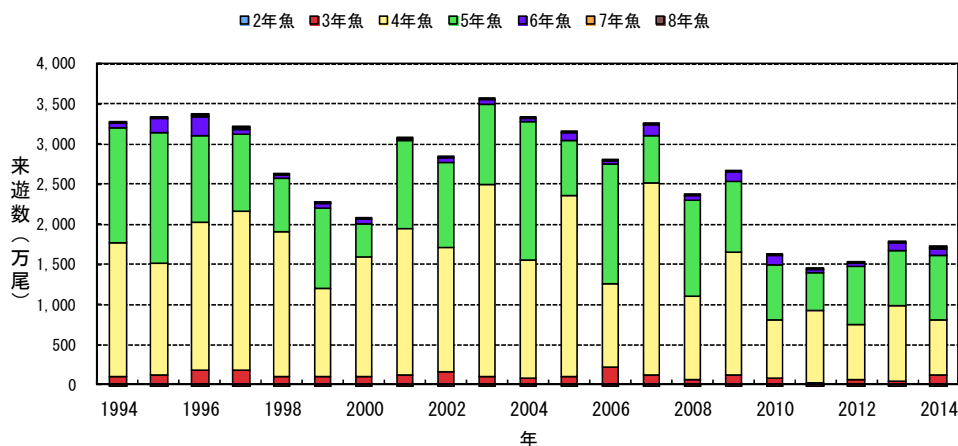


図 4. 1 月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

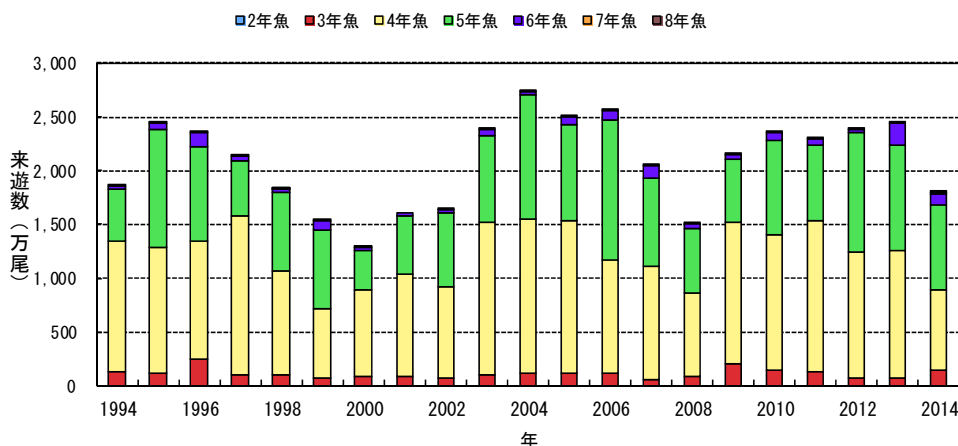


図 5. 1 月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

(本州)

本州太平洋側では、4年魚（2010年級）が前年同期49%、平年同期34%であり、1994年以降で最も低調です（図6）。5年魚（2009年級）は、前年同期150%、平年同期108%と平年並みの水準です。その結果、1月末時点の年齢組成は5年魚が56%と最も多く、4年魚が30%あまりとなっています。一方、3年魚（2011年級）は、前年同期297%と大幅に前年を上回っていますが、平年同期との比較では56%と平年よりも少ない状況です。6年魚（2008年級）は1月末の年齢組成では5%あまりと3年魚の9%よりも低い割合ですが、6年魚の来遊数としては前年同期141%、平年同期129%と前年および平年を上回っています。今年度の年齢構成を見ると、4年魚の来遊数減少が、5年魚以上の高齢魚の回帰によって補われているような状況です。なお、本年の4年魚である2010年級は、東日本大震災で被災した年級に相当します。

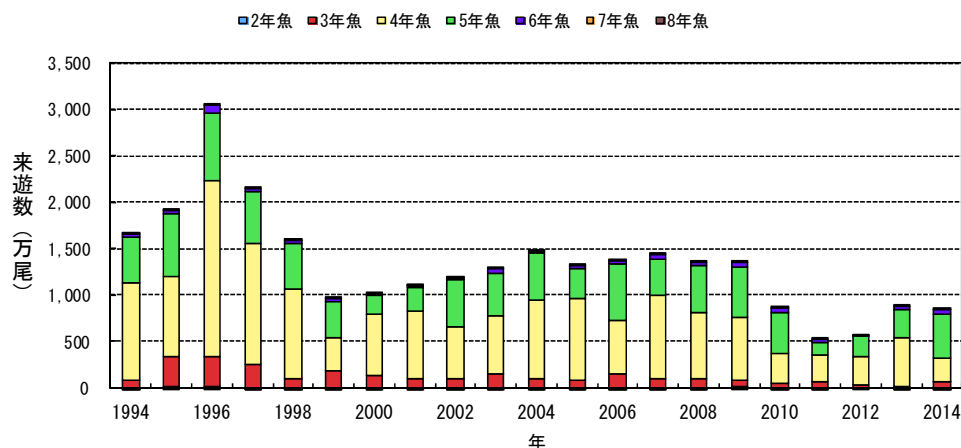


図6. 1月末時点のサケ年齢別来遊数 (本州太平洋).

本州日本海における12月末時点の年齢組成をみると（図7）、4年魚（2010年級）が54%と卓越し、3年魚（2011年級）が30%でそれに続きます。4年魚（2010年級）は前年同期122%、平年同期115%と前年および平年を上回っています。また、3年魚（2011年級）は前年同期251%、平年同期234%であり、平年の2倍以上の来遊数となっており、1994年以降では2番目に高い水準です。このように、本州日本海では主群を構成する4年魚と3年魚が平年を上回る状況になっています。

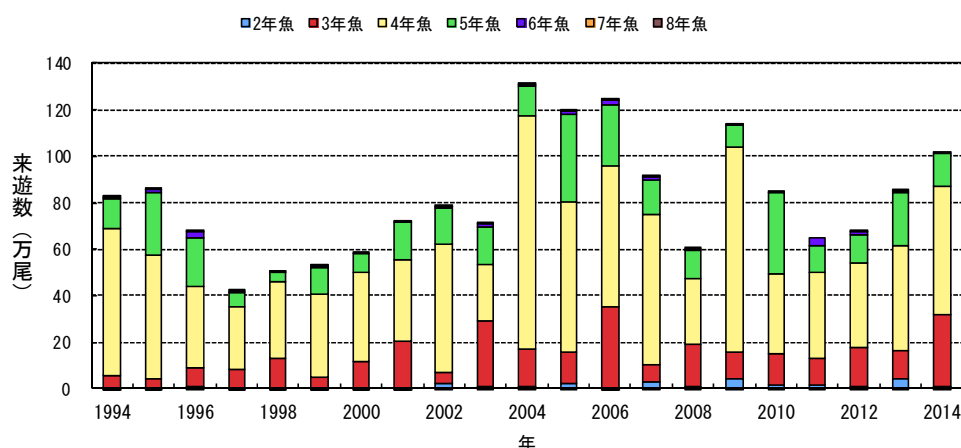


図7. 12月末時点のサケ年齢別来遊数 (本州日本海).

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年度の4年魚である2010年級は、4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、本州太平洋側では過去（1992年級以降）最も少なくなっています（図8）。それとは対照的に、本州日本海側では過去の平均的な来遊数を上回っています（図9）。また、3年魚である2011年級は、太平洋側では過去の平均的水準には及ばないものの（56%）、2006年級以降では最も多く、日本海側では過去（1992年級以降）2番目に高い水準です。

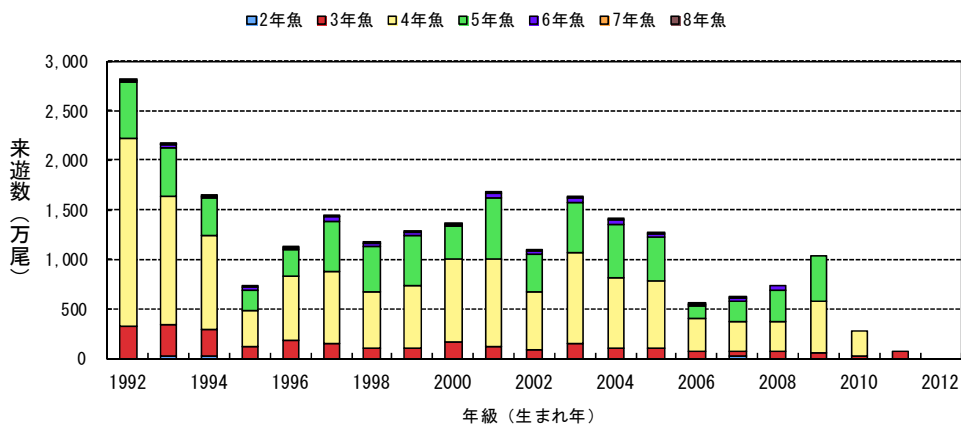


図8. 1月末時点のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州太平洋）.

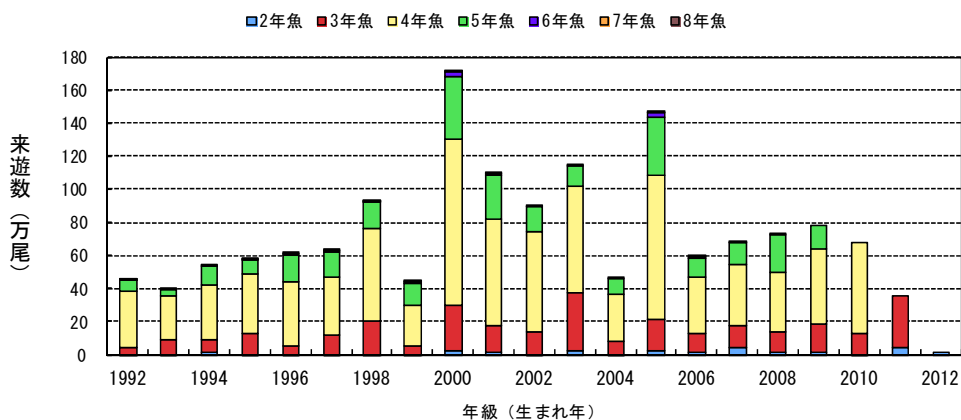


図9. 1月末時点のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州日本海）.

・サケの体サイズ

本州の1月末までのサケ1尾当たりの平均重量(サケ漁獲数と漁獲重量から算出)は3.24 kgと前年同期の108%となっています。

北海道における今年度のサケ1尾当たりの平均重量は3.49 kgであり、これは前年同期の104%に相当します。1989(平成元)年～2013(平成25)年の平均重量を比較した場合、今年度の体サイズは近年では体サイズの減少が見られた以前の2009(平成21)年～2010(平成22)年に近い水準になりました(図10)。

北海道の主要河川に回帰したサケ4年魚の平均尾叉長は、いずれの河川でも前年よりも大きく、最近では2010年の平均に近い値となりました(図11)。

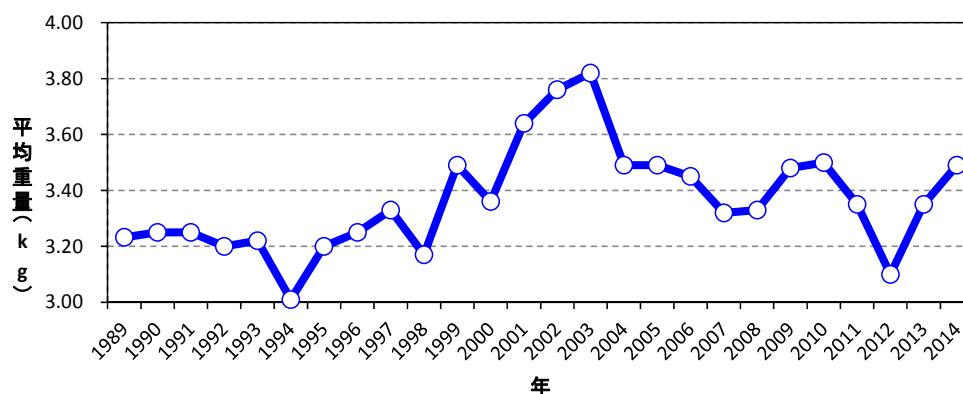


図10. 2014年度のサケ平均重量(北海道).

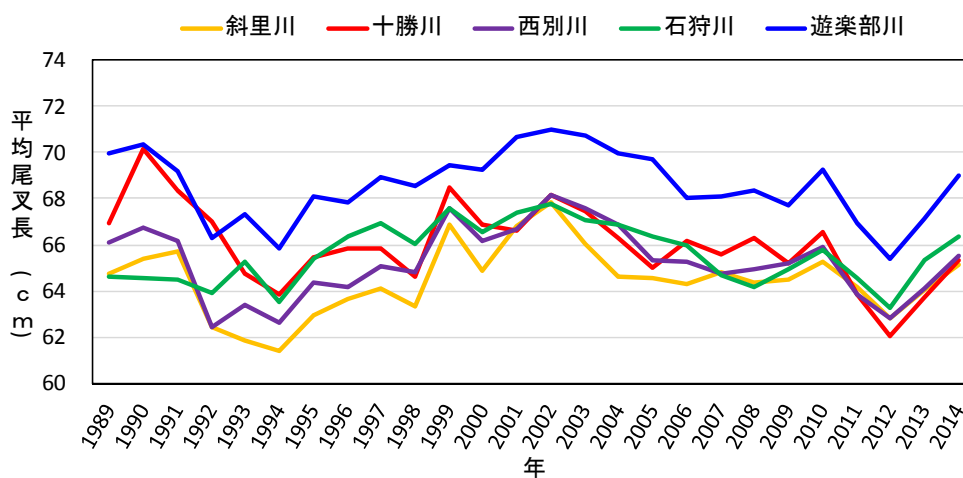


図11. 北海道の主要河川におけるサケ4年魚(雌雄込み)の平均尾叉長.